

平成26年度香川大学入学式 学長告辞

すべての生命が躍動する春を迎えました。

香川大学にも希望で胸を一杯に膨らませた入学生1,311名がここに集いました。私ども香川大学教職員一同は、皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。

ここまで育てていただいたご家族および関係の皆様方にも、深甚のお礼とお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは大学に入学して、何を学ぼうとしているのか。もちろん、将来、社会人や研究者としての素地となる一般教養や専門教育はしっかり学修しなければなりません。

大学で学修することは、よく森林の保水機能に例えられます。木々の葉っぱや苔に宿した雫の一滴は、やがて小さな流れとなり、それが源流として集合し、やがては泰然と流れる大河になります。諸君がこれから経験する毎日のあらゆる学修は、いわば葉っぱ、苔の一滴一滴であり、それを辛抱強く蓄積する努力によって、大河のごとく人生に多くの可能性と豊かさをもたらすのです。

ある識者は、現代の若者の一般的な姿について、ネット社会・ケータイ社会となって、人間関係が増え、その場を乱さない同調思考となり、氾濫する情報によって、体験したこともないのに体験した気になり、見ていないのに見た気になる既視感が醸成され、その結果、行動力や好奇心が削がれてしまう状態に陥りやすいと言っています。

ネットワークに繋がっていれば、情報は手に入れやすく、判断も迅速に行えて確かに便利です。しかし、ネットワークのみの情報に頼ると、いつの間にかバーチャルの世界に身を置き、生身の人間としての能力がどんどん低下します。

大学で過ごす時間は、そうではありません。自ら足を運び、様々な体験をし、額に汗して“自分はたぶんこの世界が大好きなのだ”、“自分がどこにわくわくするか”を見つける時間なのです。大学時代は、皆さんが自由に自分の時間を思う存分に使える人生唯一のチャンスです。日々あらゆる事に挑戦し、自分を高め、自分を深め、最も輝ける自分の居場所を発見して下さい。

皆さんが経済の高度成長期やバブル期を知らなか

った事は、ある意味で良かったと思います。バブル破綻後の混迷期を身をもって感じ生きてきた皆さんが、これからの文化や社会を創って行くのです。

今まで日本人の美德とされてきた“同質性”、“空気を読む”価値観に囚われることなく、多様な文化を日本風にアレンジして、“自分が好きな事をするのをためらわない、自分にはこれがよいと思ったことは貫き通す”若い世代に育って欲しいと思います。

香川大学は多くの可能性を秘めた皆さんのために、昨年から多彩な学修をする機会を用意しました。後ほど学部ガイダンスの際に配付予定のパンフレットにある「アドバンスト・セミナー」、「ネクストプログラム」は、一歩先に進みたい皆さんの背中を後押しする科目です。

次に、幸町キャンパスで現在工事中ですが、5月には学生・教職員が自由に交流できる広いスペースのアカデミック・コモンズ(愛称:^{オリーブ} ^{スクエア} OLIVE SQUARE)が新たに使用できます。この様に、香川大学はソフト・ハードの両面で学生の皆さんのために、より良い学修の場が提供できるように改革を進めています。

昨年11月、本学学生によって香川大学学生憲章が制定されました。これについては後ほど披露されます

が、学生七志として皆さんが香川大学生として、志高い学生生活を送る上で大きな指針となるでしょう。

ある著名人が、地方大学の学生は面白いと言われました。それは、地方にはそれぞれの景観、気候風土、歴史感、生活環境などがあり、それゆえ一定の型にはまらない、規格外の人材が輩出される可能性が高いという事です。例えば、過去の変革期の一つである明治維新を思い起こしてみてください。九州・中国・四国の地方で、独自に学んだ人材がどれだけ大きな役割・活躍をしたか、皆さんは知っているはずです。

若い皆さんは、これからの日本を形創る勇者です。ここ香川の地で存分に楽しみ、喜び、失敗し、苦しみ、涙を流して時代を動かす主役になってください。

皆さんの健闘を祈ります。

平成26年4月4日

香川大学長 長尾 省吾